



# もりまち

令和3年(2021年)2月  
第86号

# 議会だより



森町のブランド牛  
森の姫牛



題字は、天方小学校6年生のみなさんが書いてくれました。  
及川采子・奥宮蒼・鈴木真虎・栗田俐王斗・小野田裕宇さん  
渡邊律貴・笠原梨緒菜・高木純稀・中村夏梨さん

## 《主な内容》

12月定例会 2～3 ページ

一般質問 4～6

学童保育の支援員確保と待遇保障は万全か ほか

所管事務調査報告 6～7

南伊豆町、高知県大豊町の学校跡地利用を調査

# ふるさと納税2億円の増

## 11月臨時議会

11月臨時会を11月25日に開催しました。専決処分、条例改正など6議案を審議し、すべて可決しました。

## 12月定例会

12月定例会を4日から22日までの会期19日間で開催しました。

補正予算、条例改正、人事、一般議案など、提案された15議案を審議し、すべて可決しました。また、意見書1件を採択しました。

一般質問は「学童保育の支援員確保と待遇保障は万全か」など、5人が質問しました。(4〜6ページに掲載)

### 補正予算

一般会計補正予算(第11・12・13号)

補正額	3億4630万5千円
総額	110億2296万4千円

### 高齢者等新型コロナウイルス検査費用助成金

65歳以上の高齢者と指定の基礎疾患で治療を受けている町民が、本人希望によるPCR検査を森町病院で受ける場合、検査料金3万円のうち2万円を年度内一回に限り助成する

(補正第11号 400万円)

### 天竜浜名湖鉄道沿線魅力向上事業委託料

令和元年度に、浜松磐田信用金庫からの寄附により、遠州森駅に植栽したアジサイの生育状況が悪いため、追加で寄附を受け、土壌改良を行う

(補正第12号 235万円)

### 森町体験の里新型コロナウイルス対応継続支援金

森町体験の里の感染防止対策と、4月、5月の休業要請に伴う休業期間及び今年度を通じて見込まれる影響を踏まえ支援を行う

(補正第12号 3000万円)

### 森町病院繰出金

森町病院の新型コロナウイルス感染症対策経費に充当する

(補正第12号 5300万円)

### 指定避難所感染症対策に関する経費

三倉、一宮、園田、飯田総合センターの空調設備等の改修と、三倉総合センターの窓ガラスに抗ウイルス抗菌素材の飛散防止フィルムを施工する

(補正第12号 2694万円)

### 小学校管理運営費

飯田小学校卒業生の方からの寄附金(200万円)を活用し、飯田小学校の門扉や倉庫を整備する

(補正第12号 239万円)

### ふるさと応援寄附金

ふるさと納税に対する返礼品にヤマハ「PAS」を追加した

ことにより、寄附額が当初見込みより3倍に増加した

(補正第13号 2億円)



電動アシスト自転車 PAS

### 一般議案

辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について

橘・薄場辺地区における総合整備計画に、町道宮代東大洞院線改築事業を追加する



橘地区の道路(大洞院付近)を改築

### 議員発議

「防災・減災、国土強靭化対策の継続・拡充を求める意見書」を国に提出しました

条例

森町議会議員及び森町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例について

多様な人材の議会参加を促し、議員のなり手不足解消の一助とするため、町村も国や県・市と同様に選挙の経費の一部を公費負担することになりました。次回の町議会議員選挙から適用になります。

改正の内容

- ① 選挙運動用自動車の使用
- ② 選挙運動用ビラ及びポスターの作成



町議会議員選挙の立候補者が負担するもの

供託金15万円

※供託金とは…公職選挙に立候補する際、法務局等に所定の金額を現金等により支払う。当選または決められた得票数に達していれば返還され、達していなければ没収され、公費負担分も無くなる。

森町議会議員選挙日程

4月13日(火) 告示  
4月18日(日) 投票開票

討論

一般職の職員及び第1号会計年度任用職員の期末手当を減額する条例改正について(11月臨時会)

反対

町職員は、町民サービスに関わる部門のみならず、町民の暮らし、命を守るという立場で、新型コロナウイルスのプレッシャーを受けながら業務に携わっている。そのような状態で、実質的に家計を冷やすす今期の町職員の期末手当減額は、町内企業のポーンナスにも影響を与えると考えられる。また、個人消費を抑えることにつながり、地域の経済に悪影響を及ぼしかねない。

(西田 彰)

11月臨時会・12月定例会審議結果 21議案すべて可決  
賛否が分かれた議案は以下のとおりです

※議長(亀澤進)は採決には加わりません

(○=賛成 ×=反対)

議案名	山本 俊康	西田 彰	鈴木 托治	中根 幸男	吉筋 恵治	岡野 豊	中根信一郎	加藤 久幸	岡戸 章夫	出口 裕	川岸和花子	結果
一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について(11月臨時会)	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について(11月臨時会)	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

中小企業振興に関わる

要望書を提出

第一常任委員会

令和2年11月13日に森町商工会から提出された「小規模企業の振興に関わる条例制定の要望」について審議した結果、次のとおり町長に要望しました。

「本年は新型コロナウイルス感染症の影響により、当町も大きな影響を受け、小規模事業者や中小企業の経営は厳しい状況に置かれており、起業・事業継続・事業承継は喫緊の課題となっている。持続可能な経済・社会活動は重要であり、地域経済の循環と活性化のため、町・小規模事業者や中小企業・商工会・金融機関・町民等の役割を明確にし、訴求効果のある「小規模事業者・中小企業振興に関する条例」の制定を要望する。」



町長に要望書を提出



加藤 久幸

学童保育の支援員確保と待遇保障は万全か

**加藤** 新型コロナウイルスの蔓延で放課後児童クラブ(学童保育)の役割が再認識されている。共働きなどで昼間保護者が家庭にいない小学生らの居場所となる、放課後児童クラブでの問題点及び課題について伺う。

①必要な支援員が確保されているか  
②専門性や責任の重さに見合った待遇保障は

**町長** ①町としては4小学校放課後児童クラブの安定した運営のために、支援員8人に加え、支援員または補助員4人の合計12人を必要人数としている。現在の職員数は、支援員10人、補助員2人の合計12人で、必要人数は確保している。  
②放課後児童クラブの職員は、支援員と補助員に区別される。支援員、補助員ともに本年度から会計年度任用職員として任用され、報酬、費用弁償、休暇等待遇については、条例で定められたものとなっている。近隣市と比較しても遜色なく業務に見合った報酬であると考えている。今後社会情勢や近隣市町の状況等を注視し、業務に見合った待遇の確保に努めていきたい。

中学生のスマホ校内持ち込みについて

**加藤** 中学校へのスマートフォン、携帯電話持ち込みについての町の現状と問題があるか伺う。

**教育長** 町の現状は、文部科学省の通知により、スマホの学校への持ち込みは原則禁止としている。しかし、遠距離通学や公共交通機関を利用した通学における安全確保のために保護者が必要と判断した場合は、学校に申請をし、取り扱いについて学校と使用のルールを決めた上で例外的に許可しており、問題はない。学校統合を予定している森小学校では、「長距離通学の不安解消のため、携帯電話の所持を許可して欲しい」との意見があり、スマホの持ち込みについて希望調査を行い、管理方法や利用のルールについて検討をしていきたい。

情報を取り巻く環境が日々刻々と変化していく中、各家庭とも連携をとって、スマホなどの正しい使い方や危険性を認識し、適切な対応が図られるよう情報を共有し、協力して取り組んでいきたい。



町政を問う ～一般質問～



川岸 和花子

森林環境譲与税で森林教育プログラムを



**川岸** 森林環境譲与税について、次年度、森林経営管理制度導入など、予定の事業はあるか。

**町長** 森林経営管理制度の導入については、まずは森林所有者の意向調査を、令和元年度から橘地区をモデル的に行った。アンケートでは所有者の8割が「管理を町に委託できるなら検討してみたい」と回答があった。令和3年度も継続して実施していく。



**川岸** 森林環境譲与税を活用して、人づくり推進、また、次世代育成事業として、森林環境を学ぶ森町独自の教育プログラムを学校教育の中に取り入れてはどうか。

**教育長** 2017年に改定された新学習指導要領により、授業時数が増加しているため、新たな取組は非常に難しい。しかし、社会科や総合的な学習の時間の中で、森林環境について考える機会をこれまで以上に設けていきたい。

**川岸** 遠州の小京都のまちづくり民間企業や個人商店が森町の古い街並みに出店しやすい制度を設けてはどうか。

**町長** 構造上住居と一体となっていない店舗が不動産物件として流通しないこと、また、私有財産でもあり、税金を使った公的支援が個人の利益に繋がるなどの難しさがあるが、店舗所有者や地域支援団体との連携で検討していきたい。

さざんか荘跡地の整備は

**川岸** さざんか荘跡地は、見晴らしが良く、「遠州の小京都」を地形的に感じることができると聞いていたが、木が伸びてまったく景色も見えない。見晴らし良く整備し案内板を設置するなどして、観光スポットの一つにしてはどうか。

**町長** 観光スポットとして整備するためには解決すべき課題も多い。案内板の設置も含め「遠州の小京都」として、どのような形態のもの良いのか、関係法令や費用面も含め総合的に検討していきたい。



岡戸 章夫

### 駐在所閉鎖の

### 影響と対応は



**岡戸** 令和3年3月に三倉・園田・飯田駐在所が閉鎖される。影響と対応について町の考えを伺う。

**町長** 県警本部及び袋井警察署より、3駐在所を森分庁舎に統合するとの説明を受けた。警戒態勢強化が目的で、森分庁舎の当直勤務一人体制を、二人体制の3交替制(24時間対応)に強化することである。町への影響は犯罪抑止力や巡回頻度、事故や事件発生時等の対応等に多少の影響が出ると思われる。

**岡戸** 閉鎖後の地区の担当はどうか。

**町長** 三倉地区は天方駐在所が、園田・飯田地区は森分庁舎が担当することである。

**岡戸** 三倉連絡協議会より地域要望書を提出したが回答はどうか。

**町長** 三倉駐在所は老朽化しており、立寄的な機能を持った存続は難しく、撤去することである。防犯監視カメラ等の設置はプライバシーの問題があり難しい面もある

が、通学路に限定した防犯カメラの設置に対する県の助成制度もあり、必要な所があれば要望していきたい。

### 日本人拉致問題に対して

**岡戸** 政府拉致問題対策本部が企画作成した、北朝鮮による日本人拉致被害者を題材とした映画「めぐみ」引き裂かれた家族の30年」がある。森町でも上映すべきではないか。



内閣官房  
日本人拉致 HP

**教育長** 日本人拉致問題は、拉致被害者の方々やご家族の基本的な人権を踏みにじる、重大な人権侵害と認識している。この映画は地方公共団体と共催で上映や講演をすることで、国民全体が拉致問題を深く認識し、人権問題として考える政府事業の一環である。

まずは人権問題の一つとして拉致問題を取り上げ、森町人権啓発推進協議会における視聴の検討や、教職員向けの「静岡県人権教育の手引き」により啓発活動を推進していきたい。

## 町政を問う ～一般質問～



山本 俊康

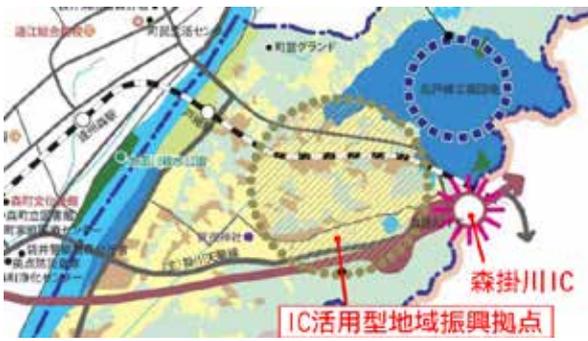
### 森掛川ICを活用した

### 工業団地開発を



**山本** 企業誘致は雇用の確保・税収の安定確保・人口増加対策として町にとって重要な施策である。

新東名は日本の大動脈であり、中心ともなる森掛川ICを活用した工業団地開発の積極的な取組について伺う。



森町都市計画マスタープランより

プラン」ではIC活用型地域振興拠点として、県の推進する「ふじのくにのフロンティアを拓く取組」では推進地域として取り組んでいる。

2期目のマニフェストとして「活気に満ちた活力あるまちづくり」において、積極的な企業誘致と雇用確保を掲げている。

今後も企業誘致の推進に必要な事業について、計画的な予算化も検討する。また、企業誘致を全庁的な施策として、プロジェクト会議・プロジェクトチームを設置し、情報の共有とスムーズな企業誘致を推進する体制整備を年明けには準備する。

開発の事業手法については、町が事業主体、県企業局主体、民間事業主体が良いのか、十分な検討を行い進める。

進出や規模拡大を計画する企業、その開発に関連する民間事業者からの要望や問い合わせは刻々と変化し、町もその変化に対応しなければならぬ。

積極的な企業誘致を進めるため、全庁的な企業誘致推進体制の確立と企業への支援体制の強化や情報収集の強化等を図る。

**町長** 森掛川IC周辺の企業誘致について、「第9次森町総合計画」では産業振興の施策として、「第3次森町国土利用計画」では産業拠点ゾーンとして、「都市計画マスター



西田 彰

### 北部地域の

### 振興策はあるか



**西田** 都市計画マスタープランの地域構想における三倉・天方地区のまちづくりの実現をどのように進めるか。また、その具体策は。

**町長** 本構想における三倉・天方地区のまちづくりの目標として「災害に強い道路ネットワーク整備、森林づくり・茶園の保全」、「定住・観光交流の促進に向けた遊休農地・空き家等の有効活用」、「吉川、かわせみ湖などの水辺活用」を掲げ、拠点形成の方針では、「三倉総合センター周辺と現天方小周辺を地域生活拠点に、アクティ森、太田川ダムを観光の拠点とし活用していくなど、他の整備方針と併せてより良いまちづくりの実現に向け、取り組んでいく。

**西田** 地域おこし協力隊の現状は初期の目的からずれていないか。

**町長** 隊員は現在2名いる。1名は「森町魅力発信事業」で、もう1名は「中山間地域活性化事業」で活動している。町民には広報しているが、特定地域での活動が多いため、

周知されていない面がある。隊員活動のチェック体制及びサポート体制の強化を目指していく。テーマに沿った活動しているが、退任後は定住を目指している。慣れない田舎暮らしながら頑張っているので、「ご理解をいただきたい。

**西田** 『自助・共助』だけでは解決しない。『公助』の思い切った施策が必要ではないか。

**町長** 互助、共助を進める一つの取組として、「生活支援体制整備事業」を実施している。3つの学校が閉校になることに関連して「森町小中学校活用検討委員会」を立ち上げ、互助、共助、公助が連携した取組を進めている。

振興策には様々な方向性がある。方向性によっては取り組み方も異なるため、まずは地域住民の意向が反映される必要がある。地域住民の皆が協力してできることをみつけていただく。その上で、町は相談があれば、できる範囲内で支援をしていく。これが公助であるときもある。

## 町政を問う ～一般質問～

# 所管事務調査報告

本年度の常任委員会所管事務調査は、町の課題である「学校の跡地利用」をテーマに静岡県南伊豆町、高知県大豊町の事例を調査しました。全国的に新型コロナウイルス感染症が広がる中で視察調査は断念しましたが、リモートでの所管事務調査に応じていただきましたので報告します。

### 静岡県南伊豆町

11月18日、南伊豆町役場企画課地方創生室、山口氏から、平成26年3月に閉校となった旧三浜小学校の跡地利用について説明を受けた。

南伊豆町は伊豆半島の最南端に位置し、天城山脈から連なる山と太平洋に囲まれた、人口約8000人の町である。

旧三浜小のグラウンド、体育館は地域の防災拠点として、教室の一部は防災倉庫として活用している。平成27年2月からは、NPO法人が広めの教室を使い、認知症カフェの運営をしている。また、地域行事などにも貸し出ししており、手続きをすればだれでも使うことができる。同じく平成27年から、杉並区の小学生の体験学習の場として年2回ほど使用している。他には、東京大学の海洋トレーニングセンターと連携し、年に数回、災害対応システム実証実験などを行っている。平成30年5月からは、給食棟を使って、グローバルコ



旧三浜小学校

**Q** 校舎が平成16年建築で比較的新しいが、建設当時の国の補助金は返還したのか。

**A** 無償貸与のため、補助金の返還はなかった。現在も無償貸与している。

**Q** 東京大学などの接点は、東京大学は、以前から研究所と学

生寮があり交流があった。NPO法人「ふーら」は社会福祉協議会と連携しており、福祉政策の一環であった。また、グローバルコムホールディングスは、町内に社員の宿泊施設があり、施設の周辺でオリーブ栽培をしていた。

**Q 観光施設として活用できなかった理由は。**

**A** 三浜小は観光地から離れた地域であり、誘客が見込めなかった。

**Q 杉並区の小学生の体験学習について、総務省の補助事業「子ども農山漁村交流プロジェクト」を南伊豆町が主催となり、4年生から6年生の40人定員で、2泊3日の漁村体験を行っている。町が100万円ほどを補助し、参加者の負担は1万円ほど、実施から5年ほど経つが、町の子どもたちや地域の人々との交流の場となっている。**



杉並区児童との交流事業の様子

以上が南伊豆町の学校跡地活用調査の概要です。

(第一常任委員長 西田彰)

## 高知県大豊町

12月17日、大豊町教育委員会の北村教育次長から、旧大田口小学校の跡地利用について説明を受けた。



旧大田口小学校

大豊町は四国山地の中央部に位置し、林業を中心とした人口約3500人の町である。閉校前より、地域が衰退していく危機感と、集合住宅として活用したいという地域からの要望があった。旧校舎1階は放課後子供教室、保育所、NPO活動拠点、2・3階は主に住居として改修された。

改修事業費の総額は約2億円で、その内訳は、国の空き家対策総合支援事業約1億円、県の空き家再生等推進事業2300万円、過疎債5700万円を活用し、一般財源はわずか1800万円の支出となっている。

【質疑応答】

**Q 住宅に改修するためのプランニングは町で考えたのか。**

**A** 1階の利用方法は地域からの意見を基に町で考えた。2・3階はプロポーザル方式で設計会社が企画・提案した。

住まい方の提案(2階平面図)



2階平面図

住まい方の提案(1階平面図)



1階平面図

**Q 入居の見込みと家賃設定は。**

**A** 町営住宅は満室状態であり、民間の家賃住宅も1棟しかなく、入居の見込みはあった。家賃設定は、単身用の35㎡の部屋が月額2万8千円、家族用の70㎡の部屋が月額4万5千円となっている。

**Q 他に跡地利用の案はなかったか。**

**A** 地域からは集合住宅として活用したいという要望があり、他に案は無かった。

以上が大豊町の学校跡地活用調査の概要です。

(第一常任委員長 中根信一郎)

## 所管事務調査を終えて

所管事務調査に先立ち、7月に学校跡地利用について、文部科学省よりリモートによる研修を受けました。今回は、全国の学校跡地活用事例の中から2か所を選定し、リモートによる所管事務調査を行いました。

南伊豆町と大豊町では、それぞれアプローチの仕方は違いますが、地域の声や企業・団体等の連携により、有効活用につながっていると感じました。

人口減少や地域の衰退など、森町でも共通の課題に取り組んでおり、学校跡地利用について大変参考になりました。

(行財政問題(課題)研究会)

会長 中根幸男

# みんなのこえ

## 森町美術クラブ



第32回 森町美術クラブ展にて

連絡先

代表 吉川 正 (北戸綿)

電話 0538-85-2481

当クラブは、平成16年、町内の日本画会、森美会、絵画教室、絵画グループ等の同好会が統合され設立しました。

会の創立経過から会員各自の持ち味を生かし、日々楽しみながら活動し技を磨くことを中心に会員10名で活動しています。

会の活動は、文化会館ギャラリーを会場として町民文化祭と年2回のクラブ展覧会への出展・展示活動が主となっています。

クラブ展では、毎回3点の出品を柱に、町内外の風景、人物、静物等々の日本画、油彩画、アクリル画、色鉛筆画等多様な作品が制作、展示され、相互に学び合える楽しい会となっています。

日ごろの活動を通し、人物、風景など対象を視る目が変わります。興味のある方は、いつでも入会歓迎です。ご連絡ください。

### 議会を聴きに来ませんか

12月議会では、のべ8人の方が、議会へ足を運んでくださいました。

予約は必要ありません。手続きも簡単です。

議場は役場3階です。

是非、お越しください。

- 定員28名
- お問い合わせ先……議会事務局  
電話 0538-85-6329

### 3月定例会の予定

3月2日(火)	本会議	初日(提案説明)
3月5日(金)	本会議	2日目(質疑)
3月9日(火)	常任委員会	委員
3月11日(木)	常任委員会	委員
3月12日(金)	常任委員会	委員
3月24日(水)	本会議	3日目(一般質問)
3月25日(木)	本会議	最終日(討論・採決)

※会議の開始時間は午前9時30分です。  
 ※日程が変更される場合もありますのでご了承ください。

### 森町折々の写真を募集中

議会だよりや議会ホームページで使用する写真やイラストを募集しています。

詳細は、議会ホームページをご覧ください。議会事務局までお尋ねください。

応募・問い合わせ先  
 森町議会事務局  
 〒437-0293 森町森2101の1  
 0538-85-6329  
 morimachi.gikai@gmail.com



森町議会HP  
写真募集について

### 出前議会報告を実施します

町民の皆さまに、議会をより身近に感じていただけるよう、議会報告に伺います。

開催希望の団体(町内会、各種団体など)は、議会事務局までご連絡ください。

### ひとこと

議員として活動を始めて早4年が経ちました。同時に議会だより編集委員も務めさせて頂きました。

行政にて、どのようなことが進められているのか、どこに向かおうとしているのか、どこに課題があるのか、様々な情報を紙面を通じて、いかに分りやすく伝えるかを毎号考えてきましたが、如何でしたでしょうか。そのほか、森町議会のホームページを新たに立ち上げたり、本会議の様子をネット配信したり、行政と町民の距離をより近づける工夫も試行しています。

まだまだ至らない点がありますが、これからも議会だよりを「愛読、よろこぶ」をお願いします。(A・岡戸)

### 議会だより編集委員会

委員長	中根 幸男
副委員長	岡野 豊
委員	加藤 久幸
委員	岡戸 章夫
委員	出川 裕
委員	川岸 花子
発行責任者	議 長

もりまち議会だより 第86号  
令和3年(2021年)2月15日発行

発行 静岡県 森町 議会  
編集 議会だより編集委員会

〒437-0293 静岡県周智郡森町森2101-1  
TEL 0538-85-6329 FAX 0538-85-6044  
https://www.morimachi.gikai.com/  
E-mail: morimachi.gikai@gmail.com